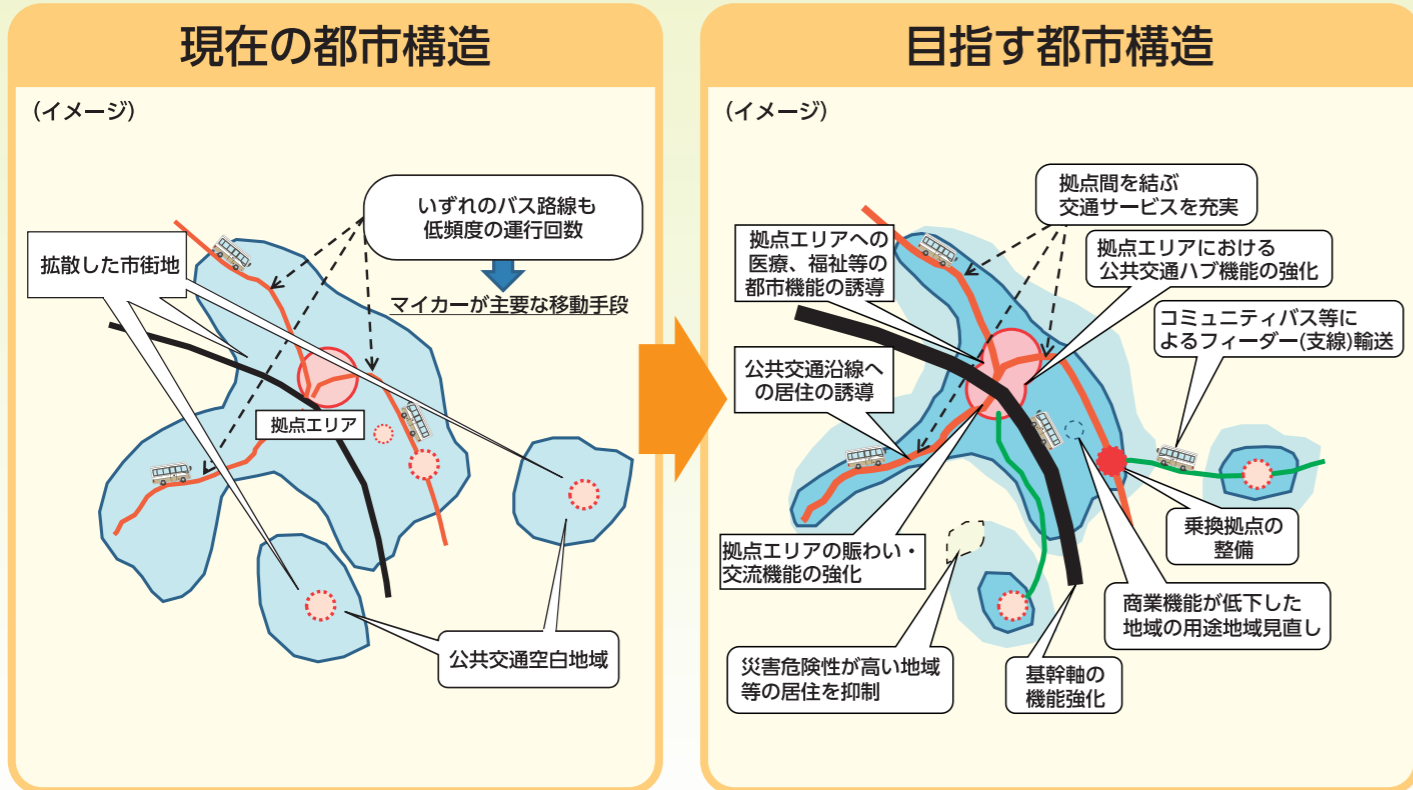


赤磐市では、現在新たなまちづくりの基本方針となる
立地適正化計画の策定を進めています。
今後、皆様のご意見等を踏まえつつ計画を定めていきます。

立地適正化計画とは

立地適正化計画は、都市再生特別措置法の一部改正（2014（平成26）年8月施行）により市町村が策定
できることになった計画であり、都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて居住機能や都
市機能の誘導によりコンパクトシティに向けた取組を推進しようとしているものです。



国土交通省資料をもとに一部修正

「赤磐市の新たなまちづくりについての住民説明会」

赤磐市では、現在新たなまちづくりの基本方針となる立地適正化計画の策定を進めています。今後、皆様のご意見等を踏まえつつ計画を定めていくにあたり、住民説明会を開催いたします。

- 日時／9月 9日(金)午後7時～午後8時
9月11日(日)午後3時～午後4時
- 場所／中央公民館2階大集会室
- 対象／市内在住の方

お問い合わせ先 赤磐市役所 建設事業部 地域整備推進室
TEL 086-955-1111(代表) TEL 086-955-1745(直通)

赤磐市の新たなまちづくり

を検討しています

現在の赤磐市では、人口減少等に伴い、解決すべき課題が顕在化しています。

人口が減少することで、
低密度で、コストが高く、利便性の低い、
市街化が進行しています。

- 生産年齢人口の減
- 少子高齢化
- 世代循環の停滞
- 利用者減少に伴う交通ネットワークの縮小、交通利便性の低下
- 空き家や空き店舗の増加による都市のスポンジ化
- 都市機能の不足によるまちの魅力の低下
- 住宅団地のオールドニュータウン化
- ➔ 持続可能な都市運営の危機

このままでは「まち」が・・・

■交通利便性の低下

人口減少に伴い、公共交通の利用者が減少し、公共交通サービスの維持ができなくなります。車を利用できないお年寄りなどが、手段を失い、生活が不便になります。

■生活空間としての魅力の喪失

人口減少に伴い、生活を支える福祉・医療サービスや商店、金融機関などが衰退し、生活基盤が弱体化します。

■公共サービスの危機

人口減少に伴い、税収は減少する一方、社会保障費の増大やインフラ・公共サービスの維持管理費は膨らむため、都市運営の危機を迎えてしまいます。

■環境負荷の増大

車の利用が増えることで、多くのエネルギーを消費するとともに、環境負荷の大きなまちになってしまいます。

- 都市機能を利用性の高い地域に集約
- 公共交通沿線や、基盤の整った住宅団地への居住誘導
- 利便性の低い場所や危険な場所への居住を抑制
- 住宅団地と都市機能が集約された場所を公共交通で結ぶ
- 土地利用構想に合わせた用途地域の見直し

都市構造を再編し集約型都市構造の実現

【目指す将来の姿】

ネットワークの強化、充実によるコンパクトで効率的・一体的な都市『新生あかいわ』時代のニーズに沿う役割(生活・行政・交通+交流)に特化した各拠点
地域内と地域外が広域的につながり、賑わい・交流を創出する新たな拠点
あかいわの魅力を享受し職住が近接した生活ができ、広域的に人が集まる魅力的な都市

これらを重層的に結び、つながり交流する都市への転換を図ります。
コンパクト&ネットワークの実現

赤磐市の新たなまちづくり

人々が“いきいき”と生活し“独自”のまちとして“きらり”と発展していく、「活力ある、住みよい、住みたい」まち赤磐

ベッドタウンからコネクティッド・シティへ ~つながり交流する都市への転換~

ストーリー①:赤磐版コンパクト+ネットワークの構築

ストーリー②:新たな時代に対応した都市構造の再編

ストーリー③:赤磐の魅力を活かした移住定住の促進

「赤磐の魅力を享受し、 発信する新拠点の検討」

新拠点に、
賑わいと交流の場となる道の駅、交通結節点となるバスターミナルや社会福祉施設・子育て施設・商業施設などの都市機能増進施設など、市民にとって利便性が高く、魅力的な施設等を検討しています。

広島・四国・九州方面

山陰方面

地域拠点

地域拠点

居住拠点では、生活基盤の整った安全で良好な住環境の維持、増進を図り、様々な世代が住み継ぎ、循環する魅力的な拠点づくりを目指します。

美作岡山道路

地域拠点では、自然と調和した暮らしが利便性を損なわずにできるよう、日常生活を営むための各施設の維持、増進に加え、行政拠点や新拠点へのアクセス性を確保します。

居住拠点

行政拠点

居住拠点

新拠点

地域拠点

山陽IC

山陽自動車道

JR山陽本線

瀬戸駅

熊山IC

瀬戸IC

関西方面

熊山駅

